

第 1 学年 大田区外国語活動学習指導案 大森東 OGC（国際教育）

日 時：令和 7 年 1 月 30 日（木）第 6 校時

学 級：第 1 学年 1 組 33 名

場 所：特活室

指導者：稲岡 めぐみ

外国語教育指導員：Rohbert Roxas

1 単元名 だいすき！ぼくのくに・わたしのくに ～あそび・学校～

2 単元の目標

自分の国や友達の国の文化に慣れ親しむために、諸外国で昔から伝わる遊びや学校の様子などについて、話を聞いたり体験したりする。

<国際教育の目標>

- 多様な考えや文化の違いから、多様性に気付くことができる。
- 多様な考えや文化の違いに気付き、自分の考えをまとめたり、解決法を考えたりすることができる。
- 自国・他国の文化や、多様な考えに目を向け、理解しようとする態度を養う。

3 単元の学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
国際教育 視点の 評価規準	① 諸外国で昔から伝わる遊びの遊び方が分かり、遊んでいる。	① 諸外国で昔から伝わる遊びの楽しかったところについて、自分の考えを表現している。	① 日本や諸外国で昔から伝わる遊びや学校に関心をもち、共通点や差異点を見付けようとしている。 ② これまでに体験した日本や諸外国の遊びの中から、もっと工夫したい遊びを選んでいる。

4 単元について

低学年では、「友達や自分の国の身近な文化から多様性に気付く児童」「自分の考えをしっかりと表現できる児童」を目指している。そこで、1年生の児童が、自分や友達の国の身近な文化を楽しみながら体験し、多様性に気付くことができるようにしたいと考え、単元を設定した。学級内の児童にルーツのある、フィリピン、中国、ベトナム、ミャンマー、ネパールの5か国、そして、OGCTのルーツであるアメリカを加えた6か国についての理解を深める活動を想定した。

これまでに、それぞれの国の基本的な表現である、挨拶、感謝の表現や、身近で簡単な遊びであるじゃんけんの仕方を体験した。また、数の数え方や言い方と、食文化について触れ、買い物ごっこの活動を通して、諸外国の文化に慣れ親しんできた。

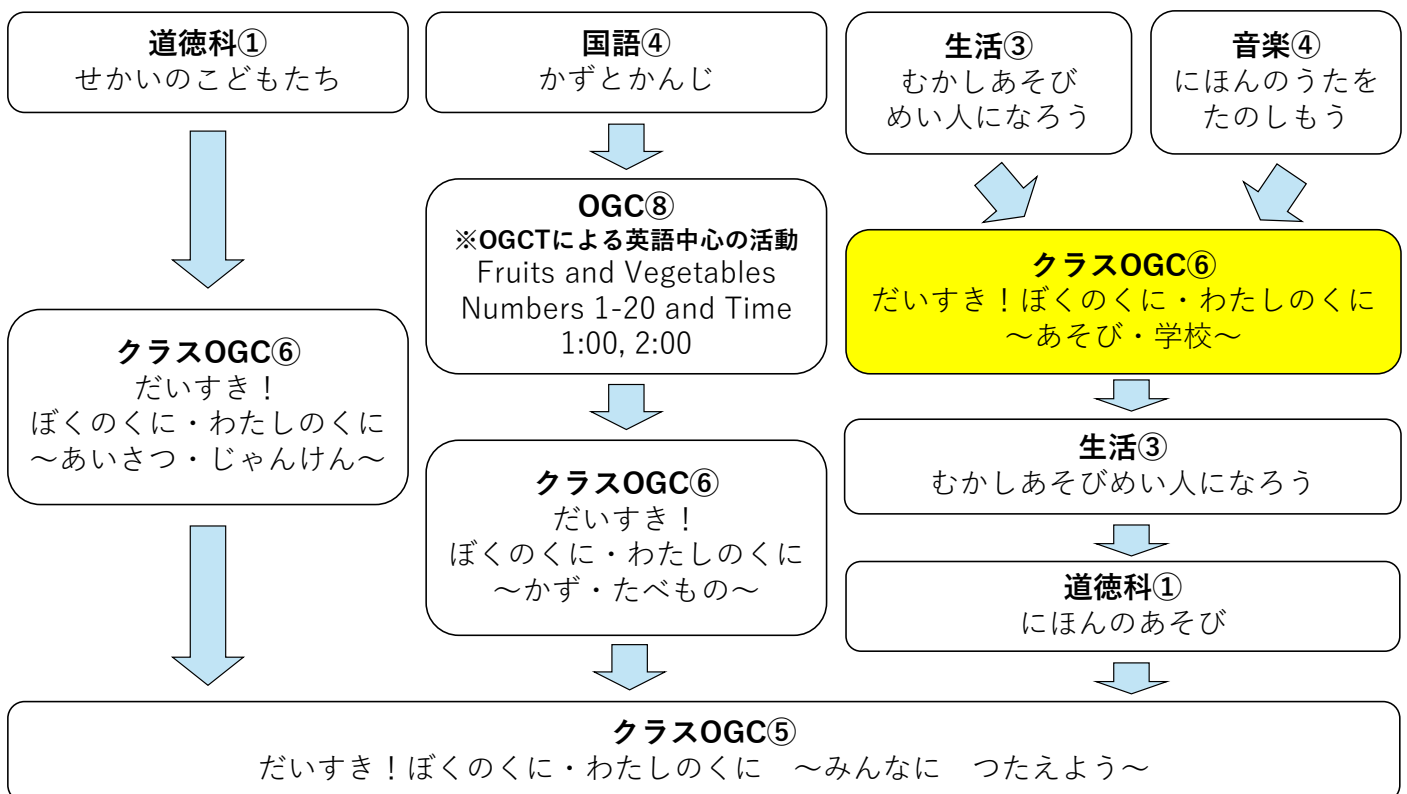
本単元では、児童にとって身近な遊びや学校について知ること、遊びの楽しさやそれぞれの国の文化の共通点、差異点に気付かせたい。更に、これらの体験や活動を通して感じたことや分かったことを他者に伝えられるような時間を、「だいすき！ぼくのくに・わたしのくに ～みんなにつたえよう～」として設けている。

諸外国の文化や言語を、児童が飽きることなく楽しく安心して体験できるようにするために、ゲームやアクティビティを中心に1単位時間の活動パターンを設け、それを繰り返すようにした。また、道徳科や国語科、音楽科といった教科等の学習を切り口にして本単元の活動内容に入るなど、教科等を横断した単元指導計画を構想した。その過程では、以下のことを念頭に、他教科との関連も含めた年間指導計画の見直しも図った。

- これまでの実践を、年間指導計画により具体的に反映する
- 学級担任でも実践できる汎用性の高いクラス OGC にする

本単元の学習を通して、英語力・発信力・コミュニケーション力を身に付け、自己肯定感や多様性を認め合う心情を高め、国際社会で活躍できるグローバルな人材としての素地を養っていききたい。

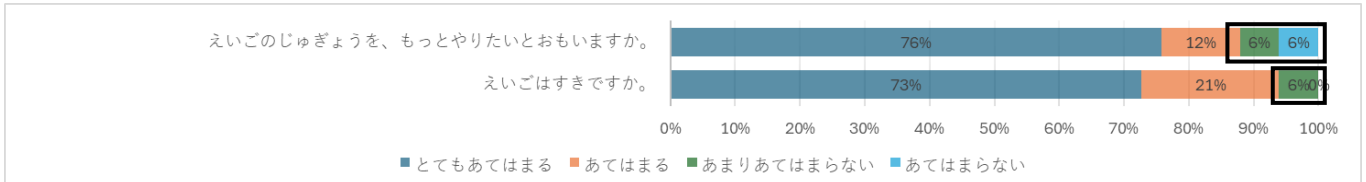
＜本単元との関連教科等および単元名＞ ※教科名の横の数字は、授業時数



5 児童について

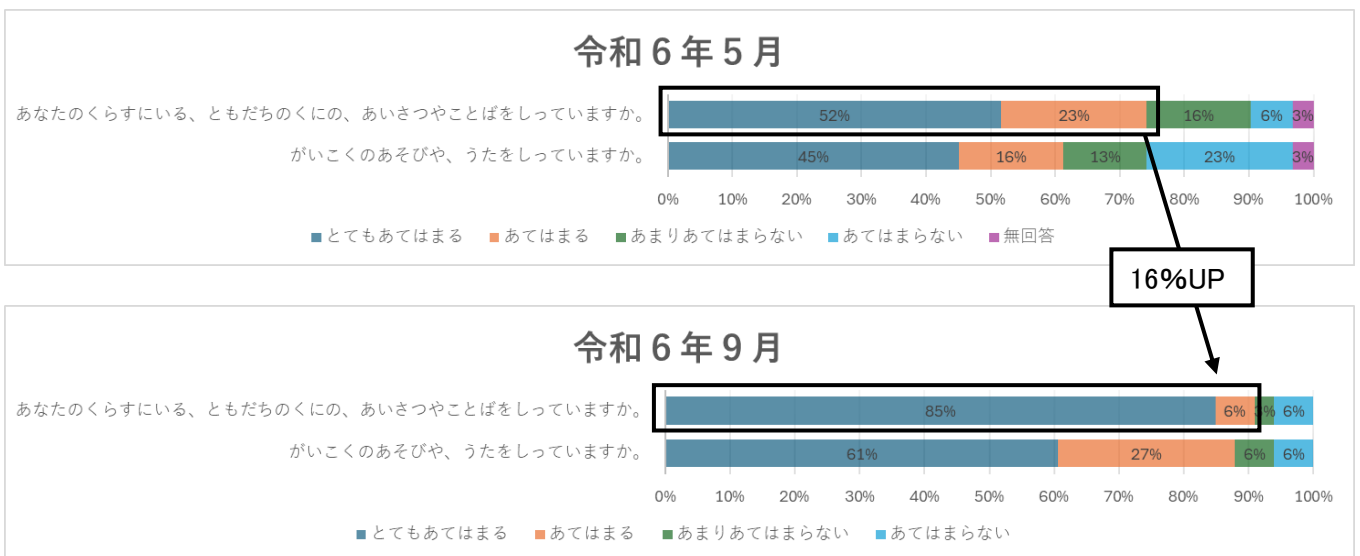
本学級には、フィリピン、中国、ベトナム、ミャンマー、ネパールの5か国にルーツをもつ児童がいる。そのうちの6人が日本語指導を活用し、日本語の読み書き、話すこと、聞くことについて、指導を受けている。これらの児童の多くが、日本で生まれ育っている。

OGCTによるOGCに対して本学級の児童は、入学して間もない頃は戸惑う様子も見られたが、すぐに慣れ、意欲的に参加している。しかしながら、表現することが苦手で、英語を発音したり一緒に体を動かしたりすることをためらう児童も数名いる。実際に、学級の児童を対象に令和6年9月にアンケートを行った結果は、以下ようになった。



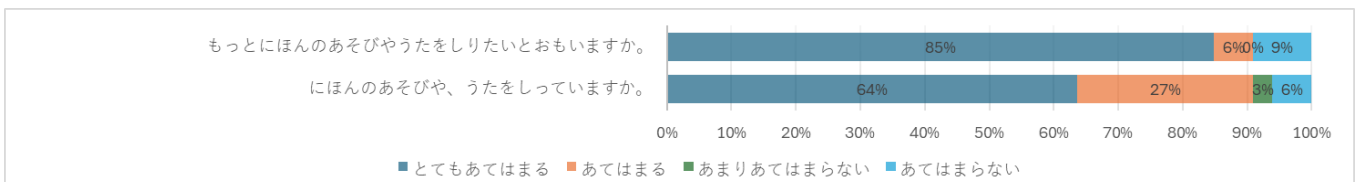
OGCは、常時TTで活動しているので、英語に対して消極的な児童に対して個別に声かけをしながら、活動への参加を促している。

また、外国の文化や遊びについての質問項目では、以下のような変化が見られた。



「だいすき！ぼくのくに・わたしのくに～あいさつ・じゃんけん～」の単元後には、多くの児童が諸外国の挨拶や言葉について「知っている」に変化していた。このことから、体験を通して友達や自分の国の身近な文化理解につながっていることが分かる。遊びや歌は、挨拶や言葉に比べて「とてもあてはまる」の数値が低いため、本単元の学習を通して、諸外国の文化を更に体験させていきたい。

また、日本の遊びや歌についての認識や活動への意欲を調査したところ、以下のような結果になった。



外国の遊びや歌に対する認識とほぼ変わらないことが分かる。1年生の多くの児童の母国であり、現在住んでいる日本の文化についても、体験を通してそのよさを実感してほしいと考えている。そこで、国語科や音楽科、生活科、道徳科などの教科等の学習を通して、児童の身近にある日本文化についての理解を深めるとともに、クラスOGCを活用して諸外国の文化にも触れさせていく。これらの活動を通して、日本を母国とする児童、諸外国にルーツをもつ児童、それぞれが自信をもって自己表現できるようにしていきたい。

6 国際教育の視点における指導と評価の計画

時	ねらい	主な学習活動・内容	知	思	主	評価方法
1	アメリカに昔から伝わる遊びの遊び方を理解して楽しむとともに、活動の流れを知る。	○アメリカの遊びを体験する。 ○アメリカの学校について知る。 ○活動の流れを理解する。	①			諸外国で昔から伝わる遊びの遊び方が分かり、遊んでいる。（行動観察）
2	中国に昔から伝わる遊びを理解して楽しむ。	○中国の遊びを体験する。 ○中国の学校について知る。	①			諸外国で昔から伝わる遊びの遊び方が分かり、遊んでいる。（行動観察）
3	ミャンマーに昔から伝わる遊びを楽しみ、その楽しさを伝え合う。	○ミャンマーの遊びを体験する。 ○ミャンマーの学校について知る。 ○ミャンマーの遊びの楽しさについて考え、友達と伝え合う。		①		諸外国の昔から伝わる遊びの楽しさについて、自分の考えを表現している。 （行動観察・発言・記録）
4	ネパールに昔から伝わる遊びを楽しみ、その楽しさを伝え合う。	○ネパールの遊びを体験する。 ○ネパールの学校について知る。 ○ネパールの遊びの楽しさについて考え、友達と伝え合う。		①		諸外国の昔から伝わる遊びの楽しさについて、自分の考えを表現している。 （行動観察・発言・記録）
5	ベトナムに昔から伝わる遊びを楽しみ、これまで体験した諸外国の遊びや学校の様子について、共通点や差異点を見付ける。	○ベトナムの遊びを体験する。 ○ベトナムの学校について知る。 ○ベトナムの遊びの楽しさについて考え、友達と伝え合う。 ○日本、中国、ミャンマー、ネパール、ベトナムの遊びや学校の共通点や差異点について考える。			①	日本や諸外国の昔から伝わる遊びや学校に関心を持ち、共通点や差異点を見付けようとしている。 （行動観察・発言・記録）
6 本 時	フィリピンに昔から伝わる遊びを楽しみ、これまでに体験した日本や諸外国の遊びの中から、もっと工夫したい遊びを選ぶ。	○フィリピンの遊びを体験する。 ○フィリピンの学校について知る。 ○フィリピンの遊びの楽しさについて考え、友達と伝え合う。 ○これまでに体験した7か国の遊びの共通点や差異点について考え、もっと工夫したい遊びを選ぶ。			②	これまでに体験した日本や諸外国の遊びの中から、もっと工夫したい遊びを選んでいる。 （発言・記録）

7 本単元における研究主題に迫るための具体的な手だて

(1) 活動のパターン化

児童が安心して活動に臨むことができると同時に、楽しく継続的に学習に取り組めるように、ゲームやアクティビティを中心にした1単位時間の活動パターンを設けた。同じ流れの活動に慣れた状態で、次々と新しい知識や体験を積み重ねることができると考えた。

(2) 体験を通して楽しむ

身近な文化を肌で体験し、楽しみながら理解させることを目的に、体験活動に重点を置いた。チャンツで挨拶や数を発音する、じゃんけん等の遊びや買い物ごっこをする、昔遊びを実際にやってみるなど、児童が楽しめるように体を動かしながら、外国語を使ってやり取りする活動を取り入れた。

(3) 他国を知るためのきっかけづくり

自分の国、友達の国について知る活動をきっかけにして、様々な国に興味をもたせるために、学級の友達の国やOGCTの国に焦点を当て、順番に紹介してきた。紹介した国は、アメリカ、中国、ミャンマー、ベトナム、ネパール、フィリピンの6か国である。

これまでに、挨拶やじゃんけん、買い物ごっこで外国語を使ってやり取りする体験をしてきた。本単元では、児童にとって身近な遊びを体験し、学校の様子を知ること、異文化に慣れ親しむことができると考えた。

(4) 外国語教育指導員や日本語指導員の活用

紹介する国の文化や言葉をよく知っている外国語教育指導員や日本語指導員の支援を受けながら、教材づくりや活動を展開した。活動の主となる挨拶や数、食べ物の名前などの発音を確認する場面では、外国語教育指導員や日本語指導員の発音を実際に聞いて真似ることができるようにした。また、教材づくりの段階で、じゃんけんの仕方や数の数え方などの詳細を事前に聞いて、活動の準備を進めた。

8 本時の学習（全6時間扱いの第6時間目）

（1）本時の目標

フィリピンの遊びを楽しみ、日本、アメリカ、中国、ミャンマー、ベトナム、ネパール、フィリピンの7か国の遊びの中から、もっと工夫したい遊びを選ぶことができる。

（2）本時の展開

過程	形態	学習活動	○指導内容 ●支援 ☆留意点	※研究との関連 (個別の手だて)	評価事項
導入 つかむ 5分	全体	1 Greeting 英語で挨拶をする。 2 Review/Chants 挨拶・感謝の言葉、数の数え方をチャンツにのせてフィリピンの言葉で発音する。	○「Hello.」「How are you?」「How is the weather?」のやり取りを行う。 ○これまでに体験した、フィリピンの言葉や文化を想起させる。	※フィリピンの挨拶や感謝の表現、じゃんけんの仕方に触れる。	
フィリピンのあそびをたのしもう					
展開 広げて 深める 30分	全体 グループ	3 Warm Up バンブーダンスの遊び方を知る。 4 Activity バンブーダンスで遊ぶ。 ・グループに分かれ、2人組で順に竹でリズムを打つ。 ・リズムに合わせて、ジャンプする。	○遊びに使う道具や遊び方、由来を、スクリーンを通して実際に見せる。 ☆指導者と外国語教育指導員で実際にやって見せるなどして、遊び方について十分に理解を図ったうえで活動させる。 ●活動に消極的な児童は、教師が個別に声を掛けながら参加を促す。	※フィリピンの文化的背景に触れる。 ※フィリピンの遊びの文化に触れる。	
	全体	5 Small talk フィリピンの場所を地図で確認し、学校の様子について話を聞く。	○日本からの距離を飛行時間などから想像させたり動画を活用しながら紹介したりして、児童の関心を引き出す。	※日本やこれまでに学んだ諸外国の文化との共通点や差異点に着目させる。	
まとめ 10分	個人	6 Reflection これまでの学習を振り返り、もっと工夫したい遊びを選ぶ。	○本単元全体の活動を振り返るとともに、活動の感想を促し、挙手や口頭で答えさせる。 ☆選んだ遊びについて、その理由も考えさせる。	※これまでに学習したことを、更に工夫していこうとする意欲をもたせる。	紹介した6か国の遊びに日本の遊びを加えた7か国の遊びの中から、もっと工夫したい遊びを選んでいく。 【ウ - ②】 (発言・記録)